

特集 介護がつなぐ笑顔の連鎖

皆さんは、「介護職」にどんなイメージを持っていますか。

多くの人が持っているのが、左のようなマイナスイメージかもしれません。

でも、町内には介護の世界に飛び込み、喜びとやりがいを感じながら

楽しく働いている「ケアラー（介護者）」がたくさんいます。

そんな誇り高きケアラーや利用者の話を通して、

介護職の魅力を見つけていきましょ。

介護って大変そうなイメージ
やりがいや魅力ってどんなもの？

体力的に
きつい
？

精神的に
大変
？

給料が
安い
？



C-1 グランプリを開催

町は2月9日、地域住民の介護に対する理解と介護職への就職者確保の支援を目的に、「第1回C-1グランプリ（ケアラーズ総選挙）」を開催しました。このグランプリは、町内の介護事業所に勤務するケアラーが、自身の体験を基に介護職の魅力ややりがいを発表するもの。当日61人の観客が集まった会場では、事前に公募した4人のケアラーが紙芝居、ギター演奏やプレゼンテーションソフトなどを使って工夫を凝らしながら、介護職の魅力と誇りを発信していました。

発表後は、岡本町長ら町審査員と来場者による投票を実施。松前町社会福祉協議会の久保貴章さんがグランプリに輝きました。

来場者のうち、大学で社会福祉士課程を専攻しているという本田晴花さん、松山市は、「介護に携わる人の話を直接聞ける貴重な機会でした」と、同じく渡部水帆さん、松山市は、「利用者さんの事例も聞けて勉強になりました」と話していました。

次のページから、熱意が伝わる素晴らしい発表をしてくれた4人のケアラーを紹介します。



松前町社会福祉協議会

デイサービスセンターみどり

生活相談員

久保 貴章 さん

（社会福祉士・介護福祉士）

介護職を志したのは高校時代

デイサービスセンターみどりで生活相談員として働く久保さん。デイサービスを利用する人の家族やケアマネジャーとの連携・相談に加え、レクリエーションの企画・運営や体操の指導、入浴・食事介助などを行っています。

福祉への理解を広めたい

ずっと信頼関係を築き、デイサービスに行くことを嫌がっていた利用者が笑顔で通ってくれるようになったり、状態の悪い利用者が少しずつ元気になったりすることにやりがいを感じています。

「『福祉』とは、頭文字をとって『ふだんのくらしのしあわせ』だと思う」と話す久保さん。「幸せの捉え方は人によって違うけど、自分の幸せを願いつつ同じように他人の幸せを願うことができ、共に生きていく支え合いこそが福祉です」と語り、「これから町内全体に福祉への理解を広めたい」と意気込んでいます。

学生時代に実習で施設を訪問した際、利用者に元気がなく、「楽しく生活できているのかな」と感じた久保さん。このときから、目いっぱい楽しんで笑顔で帰ってもらえるような、元気のあるデイサービスの実現を目指したといいます。

やりがいは与えてもらっている

利用者一人一人の特性をよく理解して介護をするよう心掛けていくという久保さん。そのためには日ごろからのコミュニケーションが欠かせません。毎回目線に合わせて会話をするなどして少し

利用者さんから



しげよし 郷田繁福さん=恵久美=

週に2回、デイサービスに通っています。久保さんは熱心で優しく、頼りがいのある人です。みんなが楽しめるようにレクリエーションを企画し、花見に連れて行ってくれたり砂浜で写真撮影をしてくれたり、うれしかった思い出がたくさんあります。

「福祉」とは、「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせ。
みんなが幸せになるために何ができるか—。



居宅介護支援事業所
菜の花
ケアマネジャー
大西 稔さん
(介護支援専門員)



社会福祉法人エンゼル
特別養護老人ホーム玉泉
生活相談員
日根潤一郎さん
(介護支援専門員・介護福祉士)

特別養護老人ホーム玉泉で生活相談員として働く日根さん。その職務内容は、入所希望者の調査、入所の必要性などを検討する判定会議への出席、入所に際しての契約、家族・ケアマネジャーとの連携・相談など多岐に渡っています。

一人一人の実態をつかむ

病院で看護師として働いていた母の影響でこの仕事を始めたという日根さん。会話や意思疎通がどのくらいできるか、立つことはできるかなど利用者一人一人の細かな実態をつかむため、介護にも積極的に携わるよう心掛けています。

そんな日根さんが介護職にとって一番必要だと話すのは、技術でも知識でもなく「ハート」。利用者の中には、機嫌よく過ごしていても急に怒ったり暴れたりする人もいます。日根さんは、「その行動には必ず理由がある」と考え、「例え理解できなかったとしても、理解しよう」という「ハート」を大切にしたい」と話します。すぐに信用してもらうことは難しいですが、時間をかけてじっくり向き合い、信頼関係を築いていくことで、心

居宅介護支援事業所菜の花でケアマネジャーとして働く大西さん。主な職務内容は、介護が必要になった在宅高齢者を訪問し、一人一人の困りごとを解決したり、思いを実現したりするための方策を一緒に考えていくことです。介護保険のサービスを組み合わせるなどして利用者と事業所の調整役を担っています。

人相手の仕事ならではの魅力

もともとは県外でモノづくりの仕事をしてきた大西さん。地元に戻るため転職先を探していたとき、先輩に紹介されて何となく福祉の世界に飛び込んだといいます。そんな大西さんが仕事をすす

る上で大切にしているのは、本気で利用者に向き合うこと。利用者の持つている思いは言葉にできるものばかりではありません。だからこそ、一人一人と本気で向き合い、その人の生き方、考え方や普段のやりとりから思いを見つけ、その実現方法を一緒に考える。そんな中で、「その人らしい暮らしを支え、信頼関係を築いていくことがこの仕事の醍醐味です」と話します。また、ケアマネジャーは利用者を支援する立場ですが、逆に支

利用者さんから一言



阿部 梨子さん
=恵久美=

日根さんは優しく、よく一緒におしゃべりをして過ごしています。施設の職員さんはみんないい人ばかりで楽しいです。

▶玉泉の皆さん



笑顔に喜びを
「介護職自体を辞めたいと思ったことはない」と話す日根さん。「人の役に立っている」と実感できるところが介護職の魅力ですね」とほほ笑むように、利用者の近くで笑顔に触れられることが大きな喜びとなっています。

これからは、「ハート」の介護を広げていきたい」と意気込む日根さん。「魅力ある介護職を社会に理解してもらうため、少しでも力添えができたならうれしい」と目標を話します。

えられることも多いという大西さん。自分が仕事の失敗やプライベートで落ち込んでいるとき、利用者にはしっかりと見抜かれていて、「無理するなよ」「元氣出せよ」と励ましの言葉をもらうとういいます。本気で向き合っているからこそ感じられるそんな人と人とのつながりこそが、「モノづくりの仕事にはない介護職の魅力」だと大西さんは話します。

利用者の思いの実現に向けて

「ここに頼れば何とかかなる」と思ってもらえる力をつけていきたい」と話す大西さん。今後もつながりを大切にしながら、次世代の職員育成にも力を入れていきます。

利用者さんから一言



近藤 健造さん
アヤ子さん
=北黒田=

(健造さん) 妻が交通事故に遭い脳挫傷と診断された後、転んで骨折し数カ月入院したことがありました。大西さんにはそのときからいろいろと面倒を見てもらって助かっています。電話したら家まで来てアドバイスをくれたり、知らないことを教えてもらったり感謝しています。

「あんたでよかった」は大きなやりがいへ。支え、支えられるつながりを大切に。



大切なのは「ハート」で接すること。それぞれの「輝き」を発見して笑顔を引き出す。

指定通所介護事業所鶴寿荘 デイサービスセンター

生活相談員
岡蓮斗さん
(介護福祉士)



指定通所介護事業所鶴寿荘の
デイサービスセンターで、生活相
談員として働く岡さん。入浴や
食事介助などの介護業務に加え、
利用者の夢や希望を実現するお
手伝いをしています。

きっかけは実習で学んだ楽しさ

当初は幼稚園で働くつもり
だったという岡さんですが、在学
中に行った障がい者施設での実
習体験がきっかけで、介護の道に
進むことを決めました。当時のこ
とを、「教えることがメインだっ
た幼稚園とは違い、誰かのお手伝
いをすることに楽しさを感じた」
と振り返ります。

利用者の夢や希望を叶えたい

岡さんのいう「利用者の夢や希
望を実現するお手伝い」とは、利
用者に、昔やりたかったことや今
は身体的な問題でやりたくても
できないことを聞いて、実現に向
けたサポートをすること。「高校
野球を見に行きたい」「町外の生
まれ育った場所に行きたい」など、
利用者が諦めていた夢や希望を
実現してきました。

この実現には、利用者から希望
を聞き出すための信頼関係づく

利用者さんから一言



デイサービスセンター
利用者

施設の人はみんないい人で、自分の肉親と
過ごすように接してくれます。私も岡さんのこ
とを自分の孫のように感じています。

レクリエーションでは、クイズなど楽しい企
画を考えてくれて、朝来てから夕方帰るまで
ずっと楽しいです。

介護は人の温かさを感じる陽の当たる場所。
笑顔絶やさないお手伝いがしたい。

地域の人と触れ合う「介護タクシー」 利用する人の思いを乗せて笑顔を運ぶ。

昌農内に住む松田さん。6年
前、54歳のときに長年務めた会
社を退職し、自営業で介護タク
シーを始めました。

地域の人と触れ合いながら働く
会社で働いているときは地域
との関わりがあまりなかったと
いう松田さん。「地域の人と触

れ合いながらできる仕事でした
かった」と介護タクシーを始め
た理由を話します。

「地元密着」をモットーに、利
用者との関係性を大切にしてい
る松田さん。病院受診のために
送った利用者の帰り時間を予測
して、その時間帯は他の仕事を
入れないようにするなど、一人一
人とゆったり関わりお世話がで
きるように心掛けています。

「どんな仕事も広い意味では人
の役に立っているけれど、介護に
携わる仕事ほどそれを強く実感
できる仕事は他にないかもしれ
ない」と松田さんが話すように、
「ありがとう」という感謝の言葉
や温かい心遣いなどを受け、こ
の仕事の魅力を実感しています。

利用する人の思いを乗せて

3年前に亡くなった松田さん
のお父さんは、脳梗塞で倒れ介
護が必要になったことでグルー
プホームに入所していました。

介護タクシーって？

介護が必要な人が安心して移動
するために考案されたサービス。
車いすのまま乗り降りできるほ
か、運転手が利用者の介助を行う
点が大きな特徴。



▶ 町内の介護タクシー業者問い合わせ先
であい介護タクシー (昌農内) ☎985-0553
介護タクシーわかば (南黒田) ☎989-9553

1人でも多くの人を笑顔に

「何でもそうですが、実際に
やってみないとこの仕事の魅力
は分からないと思う」と話す岡
さん。これからも、「目の前にい
る1人でも多くの人を笑顔に
し、「鶴寿荘に来てよかった」と
思ってもらえるように頑張っ
ていきたい」と意気込んでいま

根底にあるのは信頼関係

人対人の職業だからこそ、根
底にあるのは強い信頼関係。どの
ケアラームも、利用者やその家族と
本気で向き合い、自分も楽しみ
ながら接することその関係性を
築いています。もちろん簡単な
ことではありません。「昨日はあ
んたがおらんかったけんさみし
かったわい」「担当してくれろの
があんたでよかった」「ありがと
う」。こんな言葉をもらうまで
には多くの苦労と努力がありま
す。でもだからこそ、「人の役に
立っている」という喜びが大きな
やりがいにつながっています。

笑顔の連鎖

ケアラームが触れ合いを大切に
しながらお世話をすることで利
用者を笑顔にする、利用者が笑
顔になるとその家族も笑顔にな
る、利用者やその家族が元気に
なった姿を見たり逆に励まされ
たりすることでケアラームもまた
笑顔になる。こんなすてきな
「笑顔の連鎖」を体験できるの
も、介護職ならではの魅力なの
かもしれません。

特集介護がなく笑顔の連鎖 終わり



であい介護タクシー代表
松田洋一さん=昌農内=